



ヒボクラテス畫像考

從來日本ノ坊間ニ鬻ク所ノヒボクラテスノ畫像ガ眞物ナラザルコトハ夙ニ聞キ居リタルガ今春羅馬ニ遊ビ「カピトール」ノ博物館ニ於テ古代ノ彫刻ニ係ルヒボクラテスノ石像ヲ看、益々其說ノ謬ヲザルヲ知レリ歸途「シユレージエン」ヲ過ギ「ギヨルメルズドルフ」ノ治務院ニ備エタル像ヲ看、伯林ニ歸リテヨリ博物館ニ就テ倫敦及ヒ馬德里ニアルヒボクラテスノ古像ヲ「キプス」ニテ摸シタルモノ及ビ他ノ處ニテ見タルルーベンスガ畫キボンチウスガ鐫シタルヒボクラテス銅版像等ニ比較シタル未遂ニ日本ニ傳ハリ居ルモノハ全クヒボクラテスニアラズシテ醫學ニハ毫末モ關係ナク耶蘇ノ宗教史上ニ其名ヲ留メタル聖ヒエロニムス(紀元後三百四十年ノ頃生レ四百二十年没ス)ノ像ナルコトヲ知レリ、ヒエロニムストヒボクラテス其誤モ亦甚シト云フ可シ、抑モ誤謬ノ由テ來ル所ハヒエロニムスカ擁スル一ノ髑髏ニアリシナラム、若シ髑髏ヲ有スルモノヲ以テ直ニ醫ナリトセバヒエロニムスノ外猶「アツシーシー」ノフランシスクスヲモ醫トナシマダレンナアチ以テ女醫ト爲スノ奇談アラム、ヒエロニムス以下ノ髑髏ニ於ケルハ恰モバウルスノ劍ニ於ケルベトルスノ鍵ニ於ケルカ如ク依リテ以テ畫家カ一種ノ特性ヲ表示スルニ過ギザルナリ、殊ニ頭上ノ圓光ノ如キハ耶蘇以前ノ希臘人カ頂クベキ筈モ無シ是レ尤モ見易キノ証ナリ予ハ此頃百方搜索シテ遂ニ數種ノヒボクラテスノ畫像ヲ蒐ムルヲ得タリ乃チ其中ニ就キ最モ出來ノ良キモノニテ佛國ニ於テ成リシモノ一枚ヲ選ビテ日本ニ送り石版ニ付サシメ以テ是迄誤リ傳ヘタルヒエロニムスノ像ニ替ヘントス敢テ英雄崇拜ノ意アルニ非ズ聊カ以テ斯道ニ缺ケタルモノヲ補ハント欲スルノミ

予ガ所謂日本ニ傳ハリ居ルヒボクラテスノ像トハ髑髏逢々トシテ額上ニ皺多キ老人カ圓光ヲ戴キ左手ヲ髑髏ノ上ニ置ケルモノヲ云フナリ予ハ日本ニアルノ日屢バ此像ノ下ニ佐藤尙中ガ至誠是神ト題シ其カ漢文ニテ此像ノヒボクラテスナルコトヲ記シタル石版摺ヲ見受ケタルコトアリ現ニ四五年前ニ下谷ノ醫事新聞ハ此像ヲ取リテ其表紙ニ掲ケタルコトモアリキ別ニ予ガ家ニ長崎醫學ノ時代ヨリ傳ヘタルヒボクラテスノ像一軸アリ何人ノ筆ニ成レルヤハ今マ暗知セザレド是亦ヒエロニムスノヒボクラテストハ全ク其風采ヲ異ニセルコトヲ記載セリ

明治二十六年六月中澣
在獨逸伯林 醫學士 入澤達吉識

余ハ入澤氏ノ書に接するや否、日本よて如何にしてかゝる間違を起したるやを知らんと欲し、諸先輩に對してこれが考証を求めらるに、今日迄返事と與へられたるは左の諸氏なり
巖 華 識

拜見ヒツホクラテスの像にて醫科大學書籍室等に掲げある像は小生の心覺へは大學の畫工山田成章がさるから古き銅版の此像を持來り骸骨あるを以てヒツホクラテスと推想し繪き始めらるに創まりらるものにして佐藤尙中翁の贊字を加へたるも夫より後の事に候維新前よりヒツホクラテスの像と稱したるものハ
桂川月池先生の書しらるもの
是は多分大澤昌督元陸軍 少將君の藏ならん蓬鬆瘦たる老顔にして骸骨もなく後光もなし
渡邊華山筆ヒツホクラテス

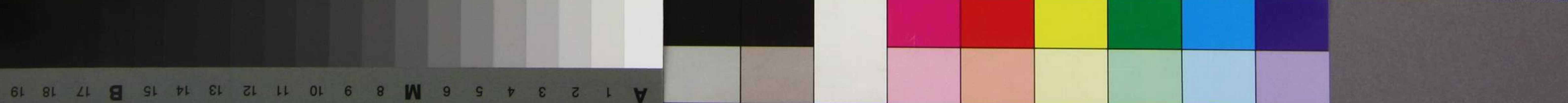
是は三州豊橋淺井常三藏にして是も彼の桂川先生の書と略不似たるものなり此畫は華山ヶ繪いたれどもヒツホクラテスは碧眼人の褐眼人かどの事不明なるより數年箇中収め置き其考証を明らかにしたる後眼を畫きたりとの傳あり
桂川先生畫の分は傳記を添あり其傳中に職方外記中の一節を引証したる覺あり
右二像の外ハ嘗て見不申候二像共に骸骨付きのものにて無之候小生も骸骨付きのものはおかしいと恠み候得共大學等に掲げありて恠まるゝを不聞候間夫でいゝのかと存居候入澤氏の說尤に候、なる程耶蘇宗教の繪を集め候處よいつて彼の骸骨をかゝへ候繪を數々目撃候事有之候
忠 惠

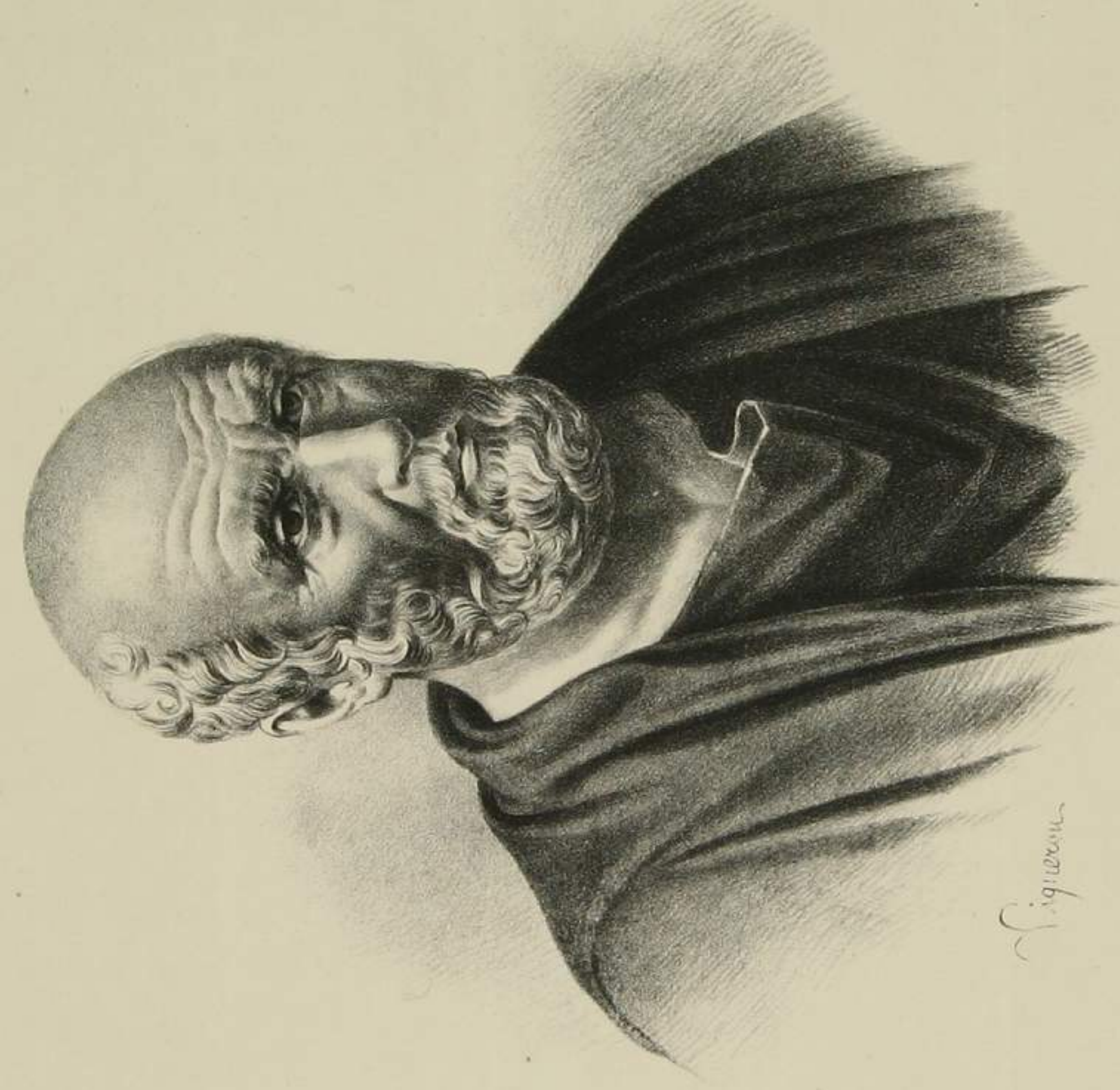
御書翰拜讀仕候御下命のヒボクラテス像相異の儀小生も疑惑を懷き居申候へども何故の間違の承知仕らる例の頭の上

に圓環ありて頭體骨格を抱き居申候像は眞にヒボクラテスにあらず一僧侶の像なる由ヘルツ氏申されたりと嘗て第一醫院にありし某氏より聞き及び其時よりまて何故にかく間違ひたるものにと探索致し申候へ共一向に其間違の次第を承知せる人無之候吳氏とも此一事につき相話し合はるとも有之候へ其何分にも間違の次第ハ不明に候然し乍ら其間違は近世の事に候歟、桂川國豪翁翁翁好でヒボクラテスの像を畫きしと林洞海氏の話か天保の中頃に畫きたるヒボクラテス像二つはをを見しに皆目今流布のヒボクラテス像と同じからず候
獨逸の醫學歴史を見るにヒボクラテスの像ハ目今我邦に流布の像と大に異なり候(中外醫事新報六月五日發行の分の西洋醫史の内に挿入せるヒボクラテス像の如き其一例ニ御座候)兎に角目今流布のヒボクラテス像は眞物には之あるまじく候入澤學士の考証精核信據すべきものと存じ申候
尙心當りの箇處二三箇處へ御尋問の上更御通信可申上先は大略御返事迄勿々
富士川 游 拜

拜啓過日は參館失禮平に御海容可被下候豫て御話し有之候肖像の義に付き米國人ビシヨッ、ウリアム氏へ問合中の處本日以使左の如く申來り候に付き御參考迄申上置候
寫眞肖像ハヒボクラテス時代よりハズツ以前のものにして余曾て小亞細亞歴遊の時今其國處は忘れたるが確よ此肖像と同一の鑄像を見しとあり其頭上の冠ハ古代亞細亞の王たる人の冠なれば彼の像は多分小亞細亞地方の王の肖像ある可し宗教に關係せる人の肖像とは思はれず云々

右の通申來候同氏も近々歸國するやよて多忙の由右概略を口傳致し來り候餘は拜眉の上早々敬白 峯 秀 世



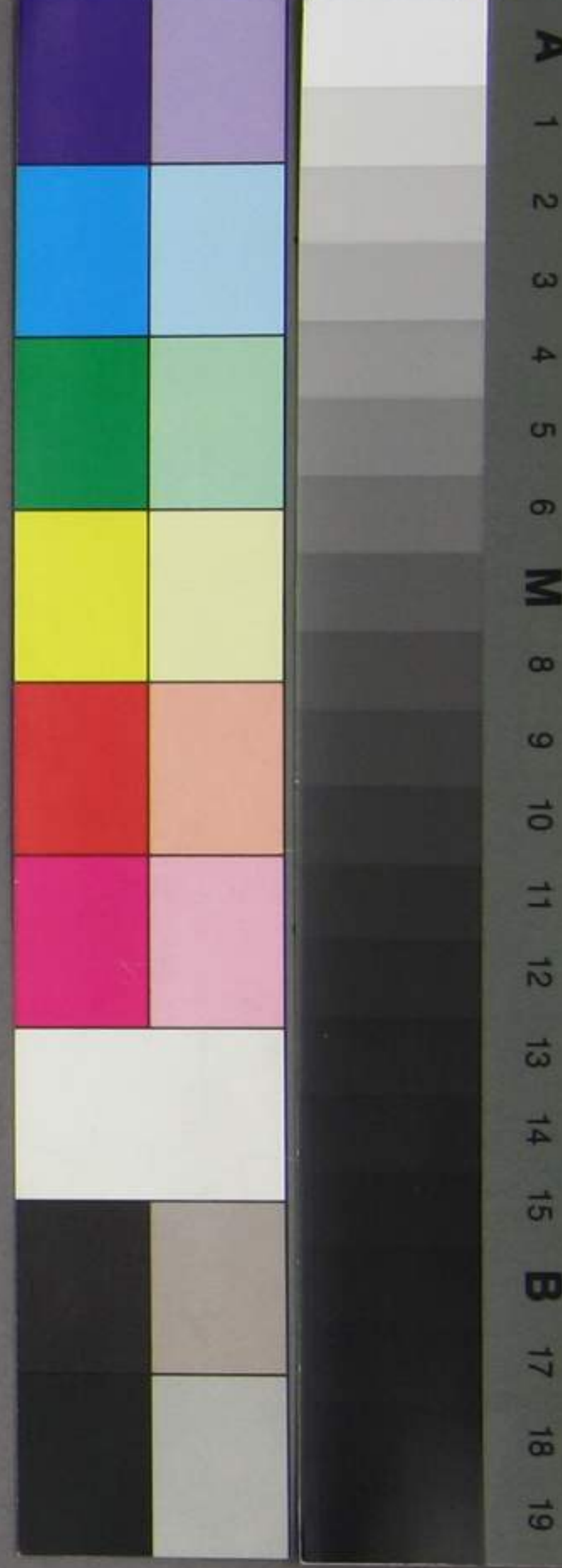


HIPPOCRATE.

ス、テ、ラ、ク、ボ、ヒ



東京大学
文庫 8
C 857



依 剝 加 得 真 像

文庫 8
C 857



42-9281